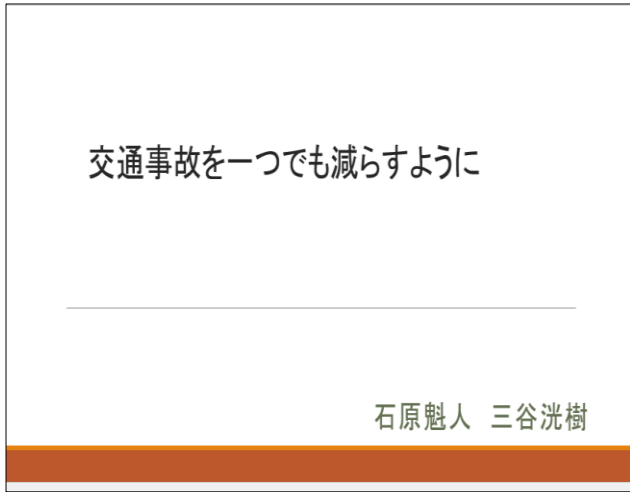


指導教員名	村上友章
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	自治体・国
			学校(教育機関)

～ 流通科学大学×兵庫県警察神戸西警察署連携計画 ～

活動の様子



最終プレゼン資料

取り組む課題

今回の連携計画では「交通安全」をメインテーマに設定しましたが、本演習参加者は「神戸市西区事故による死者数半減」を目標に掲げました。そこで特に「交差点で事故が多発していること」「通勤時間や帰宅時間に事故が増加している」「前方不注意による追突事故が多い」「信号機のない横断歩道における車の一時停止率が低い(30.6%)」という諸点に注目し、その克服を課題としました。



西警察署(ホームページから引用)

本学(学生)の役割

本連携企画の中での学生の役割は、主体的に警察の取り組みを考え、交通事故を減らす政策を検討することにあります。神戸西警察署にとっては、日ごろ警察業務に接する機会のない学生による斬新な提案を得る機会となりました。学生目線での交通安全対策に寄与するものと思われます。

企画・活動概要

本計画は流通科学大学経済学部の授業クラスおよびゼミと、神戸西警察署交通第1課とが連携し、特に公務員(特に公安職)を目指す学生が地元警察と連携企画を実施するものです。交通安全(アイス運動など)につながるポスターやパンフレット、デジタル教材/ゲーム作成、調査などに取り組みました。その中で公務員特別演習Ⅲ(2名参加)では、参加者が西警察署を訪問し、交通第1課の職員方から交通事故の様々なケースについて講義を受け、それを踏まえて交通事故を減らすための様々なアイデアを提案しました。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本コンテストへの参加を通じて、学生が成長した点、身に付けた点は2つあります。
第一に、コミュニケーションスキルの向上です。グループワークやフィールドワーク、そして他大学学生とのプレゼン・コンテスト等を通じて、コロナ禍にもかかわらず他者との濃密な対話を重ねることで、コミュニケーションスキルは格段に向上したと思えます。その中には自分自身の弱点を把握できたという成果も含まれます。
第二に、地域の現状を深く学ぶことができたということです。特にフィールドワークにおいて地域の現状を見聞きし、それをベースにアイデアを練り上げた経験は貴重な「ガクチカ」となりました。

警察署訪問をしてわかったこと

- ・ドキュメントで高齢者ドライバーの事故が放送されていて、高齢者がよく(車を)起こすと知られていますが成人(25～64歳)までの事故数の方が令和3年9月末の時点でおよそ倍ほど多く、歳を取っていなくても自分自身の運転を改めて見直す必要がある。
- ・事故が多く起こる曜日は金曜日、時間帯は8～10時または16～18時の時間帯が多い。
- ・令和3年8月末までの高齢者の死者数43人のうち約半数の20人が道路横断中の歩行者で、道を渡り切る前に横かれて亡くなっている。20人のうち約6割の12人が自宅から500メートル以内で事故にあっていいる。

最終プレゼン資料

経緯・背景・目的

経済学部・公務員試験特別演習は本学の公務員試験対策プログラムの一環として1年次後期から4年次前期まで連続して開講されているもので、受講生は公務員を目指しています。本演習では狭義の試験対策のみならず、面接対策や現職公務員による講義等を通じてリアルな公務員像や仕事内容を深く学び各自のモチベーションを高めるようなプログラムも提供しています。2年次後期に開講される特別演習Ⅲでは社会共創活動に参加することを授業の中心に据え、面接試験時に必要とされる「ガクチカ」の経験を積み、コミュニケーションスキルを向上させることを目的としています。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



経済学部
経済学科
准教授
村上友章(ムラカミトモアキ)

<関係者・企業等>

兵庫県警察・西警察署

<専門・担当科目等>
公務員特別演習Ⅲ